道徳教育指導論
Study of Moral Education

TANIAI Shinobu
谷合 しのぶ

科目ナンバリング：UTL-2-311-01

■授業の目的及び到達目標
人間としての生き方について考える道徳教育の実践に向け、自立した人間として他者とともに、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する道徳教育の目的や、道徳科の内容及び指導計画、評価や指導案作成等について理解を深め、実践的指導力を身に付けることを目的とする。さらに、授業等の DVD 視聴や指導案作成を通して、道徳的価値を深めるための基本的な指導方法について理解を図ることを到達目標とする。

■授業計画
1 道徳教育をどのようにとらえるのか
道徳教育とは何について指導するのかについて、これまでの道徳教育の歴史を振り返りながら現代社会における道徳教育の意義と課題について理解を深める。
2 道徳の目標と道徳性
学習指導要領に示された道徳教育と道徳科の目標理解を通して、道徳教育の重要性や道徳教育推進上の基本的配慮事項について理解を深める。
3 道徳科で指導する内容（演習）
学習指導要領に示された道徳科で指導する内容項目を実際にまとめることを通して、発達段階に応じた構造やねらいとする内容、指導の方向性について理解を深める。
4 道徳教育を支える基盤
子供の心の成長と道徳性の発達、実態把握の方法、並びに子供の心を開き、よりよい成長に向け子供の願いや思いを汲み取る学級経営の重要性について理解する。
5 道徳の指導計画（演習）
子供の心の成長と道徳性の発達には、学習指導要領はもとより、学校や地域の実態に応じた指導計画に基づいて指導することや目標の達成には全教職員による共通理解と実践が重要であることを理解する。
6 道徳の指導案の書き方と指導過程の工夫
学習指導要領並びに、「卒業文集最後の二行」の指導案を用いて、授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案の作成方法について理解を深める。
7 道徳科の評価
学習指導要領に基づいて、道徳科の特性を踏まえた評価の考え方、評価方法について理解する。
8 道徳科の指導の実際
中学校における道徳の時間の授業の映像を通して、学校で実施されている道徳の時間の授業構成についての考え方、指導のポイント、授業の進め方等について理解を深める。
9 道徳科の指導案の作成（演習）（１）
読み物資料「遥かなる時を超えて」を用いて指導案を作成する。資料分析、ねらい、発問・指導過程の工夫、板書計画等を明確にした指導案作成を通して、指導案作成のポイントと方法について理解を深める。
10 道徳科の指導案の作成（演習）（２）
読み物資料「遥かなる時を超えて」を用いて指導案を作成する。資料分析、ねらい、発問・指導過程の工夫、板書計画等を明確にした指導案作成を通して、指導案作成のポイントと方法について理解を深める。
11 道徳科の指導案の作成（演習）（３）
各自が作成した指導案をもとにグループ協議を実施する。ねらいを達成するための指導案作成についての意見交換を通して、道徳的価値の深め方、ねらいを達成するための発問の設定、指導方法等について理解を深める。
12 道徳科の指導案の作成（演習）（４）
前回の指導案作成の経験を踏まえ、新たな読み物資料を活用して発問の工夫・指導方法等について、さらに理解を深める。
13 学期試験及び解説、講義内容のまとめ
学期試験を実施し、実施後に解説を行う。さらに、講義内容のポイントについて確認及び、教育基本法、学校教育法に定められた教育目標、内容に即した道徳教育推進の重要性等について再確認する。

■授業の方法
講義資料や指定された学習指導要領・参考文献等を読み進めながら実施する。さらに、内容項目のまとめ、指導計画の作成や実際の授業のビデオ視聴、指導案作成・協議等を通して、道徳教育、道徳科の指導についての理解を深める。レポート、課題等のフィードバックは授業内で実施する。

■予習・復習
予習:次回の講義に関わる内容について学習指導要領等を事前に読んでおく。
復習:講義資料や参考資料をもとにレポートや課題に取り組むことをもって復習とする。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
定期試験、レポート・課題の提出状況・内容、授業参加状況（出席回数）等を総合的に判断する。定期試験６０％、レポート・課題２０％、授業参加状況２０％として評価する。定期試験の解説は、試験終了後に実施する。

■教科書・参考書
教科書　文部科学省「中学校学習指導要領総則」「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」
参考書　新・教職課程シリーズ「道徳教育論　改訂版」田中智志、橋本美保監修　一藝社

■関連する科目
倫理学Ａ／Ｂ、教育原理、教育・発達心理学、生徒指導論、特別活動論等

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
担当教員は、東京都公立中学校や教育委員会に３６年間勤務し、道徳教育に関する研究実績を積んできており、それを本科目の指導に活かしていく。